Biological and Clinicopathological Significance of Endocrine Differentiation of Gastric Adenocarcinoma Evaluated by Double Immunohistochemical Labeling for Chromogranin A and Bromodeoxyuridine

メタデータ	言語: eng
	出版者:
	公開日: 2017-10-06
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者:
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/14865

学位授与番号	医博甲第977号
学位授与年月日	平成3年3月25日
氏　　名	林　裕之
学位論文題目	Biological and Clinicopathological Significance of Endocrine Differentiation of Gastric Adenocarcinoma Evaluated by Double Immunohistochemical Labeling for Chromogranin A and Bromodeoxyuridine （胃腺癌の内分泌細胞への分化についての生物学的・臨床病理学的意義－クロモグラニンA・ブロモデオキシウリジン2重染色法による検討）
論文審査委員	主査　教授　岩　喬 副査　教授　中沼安二 　　教授　宮崎逸夫

内容の要旨および審査の結果の要旨

胃腺癌の中には種々のペプタイドホルモンを産生する内分泌型癌細胞が出現することはよく知られている。しかし，このような分化を示す癌細胞の増殖活性や癌組織の増殖・進展に与える影響については未だ議論がある。そこで本研究では，予後の確定した胃癌127症例を対象として，クロモグラニンA（CGA）に対する免疫染色を行ない，内分泌型癌細胞の出現率とCGA陽性細胞の産生するペプタイドを検索した。更に，45症例の胃癌につき in vitro Bromodeoxyuridine（BrdU）標準法とCGA免疫染色との2重染色法を施行し，内分泌型癌細胞の増殖活性を検討した。得られた成績は次のように要約される。

1．胃癌127症例中37例（29.1%）にCGA陽性癌細胞を認めた。産生ペプタイドはserotonin（32／37例）とsomatostatin（15／37例）が最も多く，glucagon／glicentin, gastrin, peptide−tyrosine−tyrosine, HCGのα−subunitの産生頻度は低かった。

2．組織型との関連では，粘液癌においてのみ有意に高率（5／8例）に内分泌型癌細胞が認められた。

3．CGA陽性症例と陰性症例との間の予後評価については，病期IIにおいてのみ陽性症例が有意に予後良好であった。従って比較的早期の胃癌における内分泌型癌細胞の出現は予後良好な因子の一つと考えられた。

4．in vitro BrdU 標識の胃癌45例中6例にCGA陽性癌細胞が認められた。6症例のCGA陽性癌細胞は強拡大視野でそれぞれ平均8.06, 56.0, 10.8, 8.66, 10.2, 29.2 個認められたがBrdUとCGA共に陽性の癌細胞はきわめて稀で，454個中1個認められるにすぎなかった。

5．各症例の癌細胞の Labeling Index（L. I.）はそれぞれ6.66, 14.29, 11.20, 6.50, 15.08, 21.14, これに対しCGA陽性細胞に隣接する癌細胞のL. I. は5.43, 10.5, 12.4, 5.17, 9.77, 22.95であり，両者間には有意差はなかった。したがってparacrine活性は否定的であった。

以上，本研究はCGAとBrdUの2重免疫染色法を用い，胃癌における内分泌型癌細胞の出現について精査し，この細胞が腺癌細胞の中では増殖能の極めて低い分化した細胞群であること，また胃癌の進展に伴って腸管系の内分泌細胞性格を発現する細胞群であることを示したものである。従って消化器外科病理学に寄与する価値ある論文であると評価された。